

普天間飛行場周辺測定結果

1 概要

普天間飛行場周辺における各測定局の配置状況を図 F 1 に、また測定結果の概要を表 F 1 に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、9 測定局中、類型 が 6 局、類型 が 3 局となっており、安波茶局以外の 8 局がオンラインで測定本部へ接続されている。

宜野湾局については、平成18年10月に測定機器の不具合が見つかったため、平成18年4月1日から10月4日までを欠測とした。また、平成17年度以前の測定結果について、1日あたりの騒音発生回数の年度推移を見ると、他の測定局が平成13年度から増加しているのに対し、宜野湾局では大幅に減少していたことから、平成13年度から平成17年度の5年間における測定結果が正確ではないことが考えられるため、同期間の測定結果を欠測とする。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

測定期間内におけるWECPNLを表 F 1 及び図 F 2 に示す。

9 測定局中 4 局で前年度の値を上回り、新城局では前年度達成していた環境基準値を超過した。

そのため、環境基準値を超過した測定局の割合は、33.3% (9 局中 3 局) となり、前年度25.0% (8 局中 2 局) より約8.3ポイント増加した。

類型別での環境基準値を超過した測定局の割合は、類型 では50% (6 局中 3 局)、類型 では0% (3 局中 0 局) であった。

(2) 1日あたりの騒音発生回数について

測定期間内における1日あたりの騒音発生回数を表 F 1 及び図 F 3 に示す。

宜野湾局を除くと、わずかな増減ではあるが、前年度に比べ8 測定局中 4 局で増加し、3 局で減少した。また、上大謝名局と新城局で比較的多く発生していた。

(3) 月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数について

月別WECPNLと1日あたりの騒音発生回数を図 F 4 ~ 4 - 2 に示す。

WECPNLは、前年度と同様、上大謝名局では全ての月で、野嵩局ではほとんどの月で環境基準値を超過した。

1日あたりの騒音発生回数は、全体的にほぼ横ばいで推移しており、最大値は、9月の新城局で、78.4回/日であった。

(4) 月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別の平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図 F 5 ~ 5 - 2 に示す。

平均ピークレベルは、滑走路延長直下に位置している野嵩局及び上大謝名局で全ての月で80dBを超えており、大山局では7月以外の全ての月で80dBを超えていた。

最大ピークレベルは、愛知局、大山局及び安波茶局以外の6局で、100dB以上を示す月があり、上大謝名局では全ての月で100dB以上の値を示した。また、最大値は、上大謝名局の1月で、117.4dBであった。

(5) 曜日別の騒音発生回数について

曜日別の平均騒音発生回数を表 F 2 及び図 F 6 ~ 6 - 2 に示す。

火曜日、水曜日及び木曜日に比較的多く、土曜日及び日曜日の発生回数は少なかった。

(6) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における月平均騒音発生回数(回/月)及び航空機騒音規制措置(日米合同委員会合意事項:H8.3.28)で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数(回/月)を表 F 3 に示す。

月平均騒音発生回数は、7時から19時の間で全体の約80%を占めるが、0時から7時、22時から24時といった深夜早朝にも観測された。

航空機騒音規制措置で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数は、前年度と比較すると、多少の増減はあるものの、ほぼ横ばいであった。

(7) 環境基準値の超過日数について

測定日数と環境基準値を超過した日数を表 F 4 及び図 F 7 に示す。

環境基準値を超過した割合の高い測定局は、高い順に、上大謝名局で357日中249日(69.7%)、野嵩局で359日中145日(40.4%)、新城局で365日中110日(30.1%)であった。

(8) WECPNLと1日あたりの騒音発生回数の年度推移について

WECPNLと平均騒音発生回数(回/日)の推移を図 F 8 ~ 8 - 2 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、上大謝名局及び野嵩局では、平成9年度以降一度も環境基準値を達成していない。

騒音発生回数は多少の変動はあるものの、全体的にはほぼ横ばいで推移してい

る。

(9) 航空機騒音規制措置合意前後の航空機騒音発生状況について

平成7年度から継続して測定している野嵩局、平成9年度に設置した上大謝名局及び新城局について、WECPNLと22時から翌朝7時までの騒音発生回数(回/月)の年度推移を表F5及び図F9～9-2に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

22時から翌朝7時の間までの騒音発生回数は、野嵩局においては平成8年度に大幅に減少した後は、ほぼ横ばいで推移している。

上大謝名局は平成11年度から増加し、近年は減少傾向にあったが今年度はほぼ横ばいで推移した。

また、新城局においては、平成14年度から増加傾向にあったが、平成16年度に減少し、その後ほぼ横ばいで推移している。

3 まとめ

(1) 環境基準値を超過した測定局の割合は、新城局が超過したことにより33.3%(9測定局中3測定局)となり、前年度より増加した。

(2) WECPNLは、上大謝名局で80.7の最高値を示した。

(3) 1日あたりの騒音発生回数は、過半数の測定局で前年度を上回った。

また、曜日別では、平日に騒音の発生が多く、火曜日、水曜日及び木曜日に集中していた。

(4) 平成7年度から継続して測定している測定局について、WECPNLと夜間-早朝(22時～翌朝7時)の騒音発生回数の年度推移をみると、WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

また、騒音発生回数については、野嵩局で、平成8年度に減少して以降、ほぼ横ばいで推移している。

上大謝名局においては平成11年度から増加していたが、平成15年以降は、減少傾向にある。

また、平成14年度から増加傾向にあった新城局では、平成16年度は減少し、その後はほぼ横ばいで推移している。

(5) 普天間飛行場周辺における平成18年度の航空機騒音測定結果は、WECPNLや騒音発生回数などで前年度同様、高い値を示す測定局があり、また環境基準値を超過した測定局が増加したことから、普天間飛行場から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し大きな影響を与えている。